

## 葉山町立葉山中学校

研究テーマ：深い学びを実現する有効な支援言と終末のあり方  
～9年間を見通した系統的な学びに向かって～

### 1、実践の目的

平成30年度より研究主題「深い学びを実現する指導の工夫」を設定し、研究に取り組んできた。併せて、深い学びを実現するためには、言語活動の充実を鍵とする視座から、副題を「生徒の主体的な言語活動を中心とした授業の創造」とし、日々の研究に取り組んできた。そして、年度末には研究の成果の可視化ができるよう、生徒を対象にアンケートを行っている。「自らの考えが深まった時はどのような時ですか」という質問に対して、「交流を伴う場面」を表す項目に半数を超える生徒が答えており、深い学びに向かう上で発話等を中心とした言語活動が有効であることについては、確かな手応えが得られた。

一方で、本校では知識の定着、考えの深化をねらいとして、学習のまとめを、主に書くことを通して表出することで、多くの授業で「振り返り」を実施している。しかしこのねらいとは逆に、先の質問に対して、「授業の振り返りをしている時」の項目を選択している生徒は2割を割っており、低調な結果となった。これは多くの授業での「振り返り」が深い学びについて十分に働いていないことを表しているのではないかという疑問を持たざるを得ない結果であった。深い学びを実現するにあたり、「振り返り」を実施する重要性は年度当初の全体会で確認済みである。ここに授業者の取組のねらいと生徒の実感との溝を見てとることができ、今後の重要な課題となった。

このような経緯をふまえ、本校では今年度から研究テーマを「深い学びを実現する有効な支援言と終末のあり方」と設定し、研究に取り組むことにした。

### 2、実践の内容

最初の全体会で協議を行い、様々な言語活動の中でも「振り返り」の時間を充実させることで、生徒の学習をより深化させられることを確認した上で、終末部における「振り返り」の取扱いを丁寧に行うように意識した。それにより、生徒が一単位時間で習得した知識や、思考した内容をアウトプットすることができ、それが知識の定着と思考の整理や深化につながった。併せて「何ができるようになったか」を客観的に捉えられる機会を設けた。

また、外部講師を招聘し、6教科で公開授業を行い、講師からの助言や、教科の壁を越えた意見交流をもとに学校全体の授業力の向上にも繋げた。

### 3、実践の成果

#### (1) 研究を通して得た視点

ア 「振り返り」の有用性を確立するには生徒に対して振り返りの価値を納得させないといけないこと。

イ 「振り返り」を通して、生徒がその日取り組んだことが、他のどのような場面で活用されるのか判断できるようになるかが重要だということ。

ウ 「振り返り」を通して自己調整力を身につけさせることが大切だということ。  
 エ 授業ごとに「何を学ぶか」を生徒自身が考え、それについて生徒自身で「振り返る」というスタイルを求めてもいいということ。

オ 学習者の実態に合わせた「振り返り」の質の設定も必要だということ。

などを新たな視点として得ることができた。

## (2) 生徒アンケートの結果

### ①各授業で「振り返り」が行われていますか。

毎回行われている	98人	22.8%
だいたい行われている	285人	66.3%
あまり行われていない	40人	9.3%
行われていない	7人	1.6%

9割近い生徒が各授業での「振り返り」の実施を実感している。教員に対しても振り返りの実施に関するアンケートを行ったところ、振り返りを行わない教員は0人となり、全職員が「振り返り」を意識的に行っていることが見て取れた。一方で「振り返り」を行うタイミングについては、教員によって差がある（授業ごとか、単元ごとか等）ため、今後、議論の余地があると考え。

### ②「振り返り」を行うことにどのような意味を感じていますか。

次の単元や次の授業に対する意欲が高まる	65人	15.1%
次の単元や次の授業に向けた準備になる	160人	37.2%
考えが深まる	212人	49.3%
新たな課題を見つけることができる	123人	28.6%
学んだ知識が定着する	240人	55.8%
意味を感じない	55人	12.8%

これは、生徒が「振り返り」についてどのような意味を感じているのかを把握するために設けた項目である。「考えが深まる」・

「知識が定着する」ことに比較的高い割合を示している。次いで、「次の単元につなげる」ことにも意味を感じている生徒が一定数いることがわかる。

複数の教員が次の単元につながるような「振り返り」を実践したいと考えていることや、年間の講義を受けて「次につなげること」の必要性を認識した今年度の研究を踏まえると、この項目の数値を上げていくことも、念頭においておきたい。また、「意味を感じない」と答えている生徒が1割以上いることも意識しなければならない。

## 4、今後の展開

### (1) 今後の課題

「振り返り」に特化して研究をすすめてきていくつかの課題がみえてきた。

ア 学んだことの視点や、その授業で得た考え方が日常生活や次の授業（単元）、今後の学習活動につながっていくような仕掛けが必要であること

イ 自身の学習の到達度や今後の課題などを客観視し、自分の行動をかえていくとする「自己調整力」を磨いていく仕掛けが必要であること

ウ 「振り返り」の価値づけが不十分であること（アンケート結果より）

エ 「振り返り」の在り方やタイミングについては検証の余地が多分にあること

### (2) 今後の展望

「振り返り」とは自身の姿を客観的に捉え、内省し、次に生かしていくという、いわば、「自己調整」のきっかけとなりうる活動である。自己調整する力は生徒がより良く生きていく上で必要な資質・能力といえる。このような力を生徒自ら身につけ、発揮できるような学習活動を目指していきたい。